

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- ものづくり技術者の育成を通して人づくりを行い、地域社会に貢献し信頼される学校をめざす。
- 1 人格の陶冶を育む学校（すべての教育活動を通して、自己規範力を養い、自ら学び自ら変える力を育成し人格の陶冶をめざす）
 - 2 自立した工業人の養成を実践する学校（産業界の変化に対応できる基礎学力と資格取得の向上により、創造力豊かな学技兼備の工業人の養成をめざす）
 - 3 健全な社会人の育成を実践する学校（基本的な生活習慣と規範意識を高め責任感に富み、心身共に健やかで心豊かな社会人の育成をめざす）
 - 4 教職員のベクトルが一致し、成果が結集する組織的な学校（課題を共有し各方向から取組みを実践し、生徒の成長に寄り添い達成感・充実感がある学校）

2 中期的目標

- 1 生徒の自信と自己実現を充実する
 - (1) 確かな学力の育成についての取組み
 - ア 1 学年については8クラス9展開のクラス運営を継続し、一人ひとりに応じたきめ細かな指導の充実を行う。
 - イ 少人数展開を実施し、また、習熟度別授業をすることで「わかる授業」を行い、生徒の自信と意欲を培う。
 - ウ 基礎学力の向上に向け、朝学の充実を図り基礎学力や資格取得等の学習力の向上を図る。
 - (2) 基本的な生活習慣の向上（生活指導の充実）
 - ア 全職員で、基本的な生活習慣の向上と定着を図る取組みを推進し、生徒自らが自己に気づき自ら改善する力を培う。
 - イ 保護者との連携を密に行い、生徒自らが遅刻の減少に努める指導・支援の充実を図る。
 - ウ 支援教育コーディネーターを中心として、支援の必要な生徒への組織的な取組みの充実を図る。
 - エ 部活動への入部率の向上を図り、生徒の自立心を育み、生徒会活動の活性化を図る。
 - (3) 実践的スキル養成重点型校として、確かな技術、技能を持つ人材の育成
 - ア 資格支援センター機能を一層充実させ、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた資格取得の充実を図る。
 - イ 資格取得の充実を図るため、調査研究等を行い、組織的活動の体制を充実する。
 - ウ 各種技能大会参加への組織的な取組みを推進し、生徒の達成感や自己肯定感を向上させ目標を持った学校生活の充実を図る。
- 2 工業教育の充実
 - (1) 「深化と接続」の理念を生かした工業教育を推進する。
 - (2) キャリア教育を一層推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る。
 - ア 学年段階ごとに系統的なキャリア学習を行うとともに、一人ひとりに応じた学習環境の改善等に取り組む(就職一次試験合格 85%)。
(平成 27 年度 79%)
 - イ インターンシップや企業見学、企業経営者による講演等の機会を充実し、仕事観の醸成を図り、卒業後の定着率(離職率 10%以下)の向上をめざす。
- 3 教員の資質向上
 - (1) 学校組織の活性化とともに、教員構成(平均年齢 42 歳、初任者が 34%)に対応した初任者等校内研修を積極的に行い人材育成に努める。
 - (2) 教員相互の公開授業や研究授業を積極的に行い、「わかる授業へ」の授業力向上と ICT を活用した教材開発を推進する。
 - (3) 人権研修の充実を図り、人権尊重の教育を推進する。
- 4 開かれた学校づくり
 - (1) ものづくり教育を通して、小中学校や支援学校との連携を図り、専門教育への興味関心を高める活動の充実を図る。
 - (2) 平成 28 年度学校経営推進費事業により、工科高校の広報活動を推進する。(就職一次試験合格率 85% (平成 27 年度 79%))
 - (3) 学校の Web ページの充実を図り、信頼と透明性のある学校づくりを行う。
 - (4) 堺・高石地域の地場産業や公共団体との連携を通して、生徒が自らの目標と将来への夢を育む活動の充実を図る。
 - (5) NPO や各種団体と連携を深め、生徒が積極的に外部と繋がることで、生徒の気づきを促し夢や志を育むことを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 10 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|---|
| <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上に向け、朝学の完全実施等に取り組んだ結果、生徒の基礎学力向上に関する肯定的回答が前年度比 17% 向上した。また、生徒の朝学に対する意欲も前年度比 47% の向上があり、完全実施の効果が表れた結果となった。ただ、教員の学力結果についての肯定率はやや低下しており、この差の要因等の分析が課題である。 ・授業アンケートの全体ポイントも 4.5% の向上があり、授業改善の取り組みの成果が見え始めている。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団と生徒指導部が連携した指導の強化により、生徒の遅刻等への意識が前年度比 21% の向上が見られ、実際の遅刻数も 10% 減少する結果となった。ただ、教員の基本的な生活習慣に関する肯定率は低下しており、このギャップの課題要因等の分析が必要な結果となった。 ・学校に対する意識に関する項目の肯定率が前年度比 16% の向上が見られ、カウンセリングマインドによる指導や生徒・保護者の納得できる指導の充実の成果があった。 ・資格取得への取り組みについて、生徒・保護者ともに 10% の以上の向上 | <p>第 1 回 (5/27)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資格取得について <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の取組みの推進については、不透明な社会状況で転職者も多いことから進めてもらいたい。 ○授業の改善について <ul style="list-style-type: none"> ・工科高校は、小中学校や普通科高校と異なり工業高校の専門性という部分があり、そういったところでの工夫した取組みに努められたい。 ○情報提供について <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜における定員確保の観点からも、学校ホームページ等による情報提供を充実させ、保護者を含め多くの関係者の方に見てもらえるよう PR に努められたい。 <p>第 2 回 (11/28)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業力の向上について <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート結果の全体的な向上は評価できるものである。さらに堺工科の生徒にあった指導法を校内研修などで積み重ねるとともに、より丁寧な授業の進め方や板書の方法の改善に取り組んでももらいたい。 ○生活指導について <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断による生活指導のアンケート結果は、生徒、保護者ともに改善されて |

府立堺工科高等学校

が見られ、資格支援センター設置による体制づくりが評価されたと思われる。

【学校運営】

- ・教育活動の情報提供について、学校ホームページをリニューアルし積極的な情報提供に努めているものの、保護者の肯定率はやや低下（-5%）しており、内容等やPR方法についての再検討が必要と思われる。
- ・会議等の機能についての教員の肯定的な回答が23%にとどまっており、会議のあり方を含め、意見収集や情報共有などのシステムの再検討が必要と思われる。

いると感じているが、教員はまだまだ改善の余地があるという認識でギャップがあり、遅刻者数等の改善にとどまらず、まだ不足している部分の再検討に努められたい。

○安全安心な学校生活に向けた言葉の指導について

- ・社会性や人との距離感、我慢や説得することを学ぶことは、社会人としての土台となり、このためには言葉の力による指導が重要であり、これに努められたい。

第3回（2/9）

○生活指導について

- ・遅刻等の減少傾向を維持し、正しい生活習慣の確立に努められたい。

○授業について

- ・ICT等を一層活用して、より良い授業運営に努められたい。

○キャリア教育について

- ・インターンシップをできるだけ多くの生徒に経験してもらい産業界に人材を輩出してもらいたい。

府立堺工科高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|-----------------|---|--|---|---|
| 生徒の自信と自己実現を充実する | <p>(1) 確かな学力育成への取組 ア 少人数指導の取組 イ わかる授業への取組 ウ 基礎学力向上への取組</p> <p>(2) 生徒指導の充実</p> <p>(3) 実践的スキル養成重点型校として、教育活動の更なる充実を行う</p> | <p>(1) ア・第1学年については、数学と英語について少人数指導を継続実施する。 イ・教員相互による公開授業を行い、わかる授業を観点とした授業力向上を図る。 ウ・朝学の完全実施により、学習習慣の確立と学力の定着を図る。 エ・多様な生徒の実態に応じた、進級卒業規定を継続的に検討する。</p> <p>(2) ア・生徒状況(課題)の変化を的確に捉え、実態に応じた生徒指導を学校として統一的に取り組む。(マナーの向上を図る。) イ・学年と連携した遅刻指導を充実し基本的生活習慣の改善を図る。(第1学年指導の強化) ウ・新入生の全中学校を訪問し、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導を充実する。 エ・支援教育コーディネータを中心として校内支援教育体制を充実し、個に応じた指導を充実する。 オ・部活動強化週間の充実や情報発信の強化をはかるとともに、さらなる部活動活性化策を検討する。</p> <p>(3) ア・資格取得の充実を図るため、資格支援センターを中心に、各系、学年と連携し生徒の意識改革に取り組む。 イ・技能競技会への取り組みを積極的に推進する。 (高校生ものづくりコンテスト、全国製図コンクール、高校生溶接技術コンクール、高校生ロボット相撲大会、ソーラーカーレース、マイコンカーラリー等)</p> | <p>(1) ア、イ、ウ・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目を前年度の10%向上をめざす。(H27年度58%) ・学校教育自己診断アンケート結果で、学校生活の満足度に関する項目を前年度の10%向上をめざす。(H27年度60%) ・基礎力診断テストの学年平均得点の前年度平均を上回る。(第2、第3学年)(平成27年度1年178点、2年182点)</p> <p>(2) ア、イ、ウ・中退及び留年者数を前年度の10%改善をめざす(H27年度53名)。 イ、遅刻者数を前年度より10%減少をめざす。(平成27年度4099名) ウ、特別指導対象者数を前年度より10%減少をめざす。(平成27年度69名) エ、特別支援教育に係る教員研修の参加者アンケート(研修成果)の肯定率80%以上をめざす。(平成27年度は未調査) オ、部活動への入部率45%以上とする。(H27年度39%)</p> <p>(3) ア・資格取得率を各検定ごとに、昨年度以上をめざす。(H27年度第1学年55%) ・ジュニアマイスターの受賞者数の、前年度以上をめざす。(H27年度7名) イ・3つの技能競技大会で上位入賞をめざす。</p> | <p>(1) ア、イ、ウ・学校教育自己診断アンケート結果で、基礎学力向上に関する項目は前年度比17%の向上が見られ、朝学の完全実施による学習習慣の定着が図れた。(○) ・学校生活の満足度に関する項目は前年度比13%の向上が見られ、生徒の意欲的な取組を促す指導の成果があった。(○) ・基礎力診断テストの学年平均得点は、前年度からの伸びは見られなかった。(平成28年度1年179点、2年178点)課題を分析し次年度に臨みたい。(△)</p> <p>(2) ア、カウンセリングマインドの指導を推進したが中退者数の減少には至らなかった。(H28年度73名)(△) イ、ウ・遅刻者数は前年度比15%の減少、特別指導対象者数は前年度比17%の減少を達成した。第1年指導の強化が成果として現れた。(◎) エ、研修成果調査が担当関係者のみで終わったため、正確な成果確認ができなかった。教育相談体制に関する自己診断結果は肯定率が約10%向上したが57%に留まり、研修内容等のさらなる充実を努めたい。(△) オ、部活動入部率は37%に留まったが、1学年の加入率は43%と向上し、学年と連携した成果は見られた。活性化への機運醸成等に努めたい。(△)</p> <p>(3) ア、資格支援センターの積極的な取組みで、資格検定合格率は、67%となった。(○) イ、電気工事コンテスト大阪大会1位(近畿3位)、電子回路組立コンテスト大阪大会2位、溶接技術コンテスト入賞など、上位入賞を果たす。全国へ向けた一層の取組みに努めたい。(○)</p> |
| 工業教育の充実 | <p>(1) 「接続と深化」の理念を生かす工業教育の推進</p> <p>(2) キャリア教育の一層の推進・充実を行い、一人ひとりの進路実現の充実を図る。</p> <p>(3) 地域の小中学校児童生徒に、工業教育への興味関心を深める。</p> | <p>(1) ア・進路指導部と学年の連携を深め、進路選択がスムーズに進むよう、組織的指導体制を整える。 イ・進学希望生徒への個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>(2) ア・各学年での「キャリアガイダンス」の指導の充実を図る。(地域企業等と連携した企業ガイダンスの実施) イ・学年と連携した参加促進により、インターンシップを積極的に推進する。</p> <p>(3) ア・本校専門性を、地域小中学校生徒へ公開し工業教育への関心と興味を広げる。</p> | <p>(1) ア・就職一次試験での合格率85%以上をめざす。(H27年度79%) イ・補習体制を構築し進学希望者の全合格をめざす。(H27年度100%)</p> <p>(2) ア・各学年、年間2回以上外部講師による講演や企業見学を実施する。(H27年度各学年2回) イ・インターンシップ参加者の活動充実度90%以上をめざす。(平成27年度80%) ・企業の生徒評価肯定率70%以上をめざす。(平成27年度未調査) ・7月に昨年度卒業生の離職率を新たに調査し、離職率10%以内とするようキャリア教育の充実を図る。(H27年度未調査)</p> <p>(3) ア・地域の小・中学校生徒の実験実習等の参加授業を3回展開する。(H27年度各2回)</p> | <p>(1) ア、進路指導に関する自己診断の肯定率は13%向上しているが、1次試験合格率を伸ばすことはできなかった。課題の分析に努めたい。(△) イ、指定校制度を活用し、大学進学希望者全員の合格を果たせた。(○)</p> <p>(2) ア、各学年2回の講演や企業の出前講座等を実施できた。(○) イ、事前指導等の充実により、インターンシップ先企業からの生徒評価の肯定率は90%の評価を得た。ただ、参加生徒数が少なく企業開拓などの課題もみられ、更なる充実に向けて取り組みたい。(○) ・離職率調査は全国工業校長会の事業費を活用したため、3年後離職の調査となった。結果は、27%と工業高校全国平均より高く、進路指導の改善に向けた課題となった。(△)</p> <p>(3) ア、夏休みと2学期に実験実習の参加体験型のイベントを3回実施。参加者の肯定率は98%と好評を得ているが、参加者数は横這いで、PR方法の検討が必要。(○)</p> |
| 教員の資質向上 | <p>(1) 学校組織の活性化と教員構成(平均年齢42歳、初任者が34%)に対応した人材育成に努める。</p> <p>(2) 教員相互の公開授業や研究授業の推進による授業力向上とICTを活用した教材開発を推進する。</p> <p>(3) 人権教育を充実す</p> | <p>(1) ア・共通の授業観察シート等を活用した研究授業を実施し教員個々の教科指導力の向上を図る。 イ・初任者等校内研修の充実(事前事後指導の実施)</p> <p>(2) ア・公開授業をとおして、学校としての教育力の向上とICTを活用した教材開発を図る。 イ・中学校教員向けの授業公開を行い、相互の授業力の向上を図る。</p> | <p>(1) ア・教員の研究授業を各科系で年間2回以上開催する。 イ・研修目的への達成度自己評価70%以上をめざす。</p> <p>(2) ア・公開授業週間を実施し、全教員相互の授業見学により教育力の向上を図る。(教員の参加率50%)(H27年度38%) イ・年間に6日授業公開を行う。</p> <p>(3)</p> | <p>(1) ア、各科系の経験の少ない教員が年間3回の研究授業を実施し、回を追って内容の充実が図れた。次年度も取組みを継続。(○) イ、全ての初任者研修で振り返り指導を実施し、自己評価達成率が90%を果たせた。(○)</p> <p>(2) ア、教員相互の授業見学参加率は50%と向上したが、時期や方法等のさらなる検討が必要。(○) イ、中学校教員向け研修という形で府教育センターと連携して実施。次年度もこの形で継続。(○)</p> |

府立堺工科高等学校

| | | | | |
|-----------|--|--|---|--|
| | る。 | <p>(3) ア・人権教材の資料を整理し、授業で活用できるようにする。 イ・教員の障がい理解や人権意識を高める研修を実施する。 ウ・障がいのある生徒との共同学習を積極的に行い、豊かに生きる力を育成する。</p> | <p>ア・ホームルーム等を活用して人権教育の充実を図る。(各学年1回) イ・人権、障がい理解等教員研修を年間5回以上実施する。 ウ・障がいのある生徒との交流を2回以上行う。</p> | <p>(3) ア、いじめ(1年)、スマホ(2年)、労働と人権(3年)という内容で実施。(○) イ、発達障がい、合理的配慮、体罰等の教員研修を6回実施。今後は内容や成果等についての検証が必要(○) ウ、聴覚障がいのある工業系生徒と機械系の課題研究で共同学習(たたら操業含む)を実施。(○)</p> |
| 開かれた学校づくり | <p>(1) 小中学校等との連携を図り、本校の専門性を発揮する。 (2) 工科高校魅力発信事業(平成28年度学校経営推進費) (3) 学校Webページの充実を図り信頼と透明性のある学校づくりを行う。 (4) 堺・高石地域の地場産業や公共団体との連携 (5) NPOや各種団体と連携</p> | <p>(1) ア・近隣の小中学校に対し、ものづくり体験教室を実施する。 (2) ア・工科高校の教育内容等(工科9校を取りまとめ)の理解を促進するプロモーションビデオやリーフレットを作成し、広報活動を展開する。 (3) ア・今年度は、昨年度デザインを一新したWebページのコンテンツの充実を図り、一層の情報発信に努める。また、携帯電話連絡網の充実を図り、学校と保護者等との連携を促進する。 (4) ア・地域の企業や団体との連携事業を整理するとともに、新たに産学連携活動確認書(協定)を結び組織的な連携関係を構築する。 イ・地域の地場産業(伝統工芸堺打刃物等)との連携により課題研究や授業等の一層の深化を図る。 (5) ア・堺市等と連携し、各系の専門性を基盤に古墳群などの文化遺産の継承や自然環境の保全活動等への貢献活動を実施する。</p> | <p>(1) ア・ものづくり体験教室の参加者アンケートの肯定率90%以上をめざす。 (2) ア・平成29年度選抜における志願者数を募集定員数の100%とする。 (3) ア・Webページの更新頻度を昨年度実績を上回るとともに、生徒活動関連の新規コンテンツの追加。(H27年度更新頻度3週間に1回) (4) ア・複数の企業等と新たに産学連携活動確認書の締結をめざす。 イ・溶接講習・たたら製鐵等を行い、生徒の学習意欲の向上を行う。(年間3回実施) (5) ア・連携団体への活動アンケートを実施し、貢献活動肯定率90%以上をめざす。</p> | <p>(1) ア、ものづくり体験参加者の肯定率は98%あり目標を達成した。今後、参加者数数の増加に向けた検討が必要。(○) (2) ア、H29年度選抜の志願者は、定員の109%を達成。(◎) イ・工科高校の専門性を多数のコンテンツに盛り込んだPR映像「Beプロフェッショナル」を作成し、Web上で公開した。動画再生回数(ユーチューブのみ)は各コンテンツ計で5000回を達成した。(△) (3) ア、7月より新規コンテンツ「校長だより」を発信。全体の更新頻度は昨年度の倍以上の1週間に1回まで伸ばすことができた。アクセスページビューは10万を超え、新規閲覧者も6割に達した。ただ、学校教育自己診断の情報提供に関する肯定率は横這いでPR方法等の再検討が必要。(○) (4) 学校独自の連携協定締結には至らなかったが、府教育庁の企業等連携による実践的技能力育成事業を活用し、各専門系で6社6テーマの企業連携事業を実施。外部の高度な専門性活用は今後も継続。(○) イ、たたら操業、刃物づくり、溶接講習、旋盤実習で地場産業(特別講師)と連携。10年経過したたたら操業は、材料調達の問題も含め、作成した鋼鉄の活用等、新たな方向性の検討に努める。(○) (5) ア、連携先がほぼ堺市単体となったため、アンケートは実施しなかったが、本校の地域貢献活動に対して、初めて堺市長より古墳の水質浄化活動等への感謝状の贈呈を受ける。古墳群の世界遺産登録を応援した線香アートを実施し、ギネス世界記録を更新。(◎)</p> |